事例No.	1281
公表年度	R1
団体の属性	都道府県
団体名	秋田県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

関係人口会議　～ツッコミ待ちです秋田県。～

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

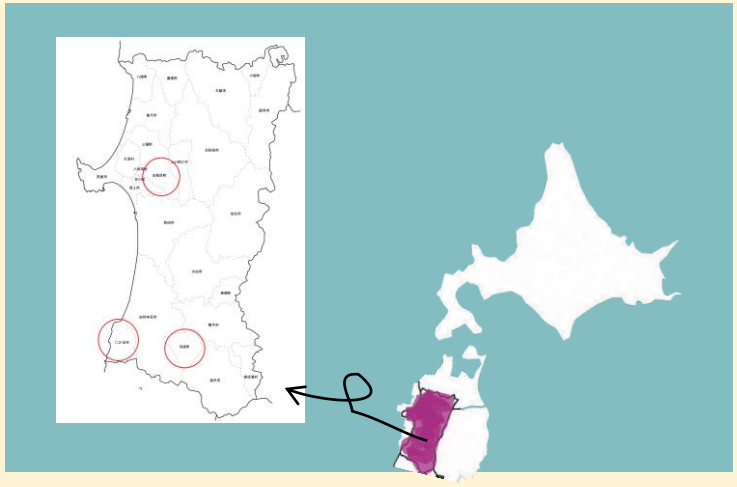
秋田県（にかほ市・五城目町・羽後町）
（関係創出型）

「「関係人口」創出プロジェクト」事業

１.地域の概要

- 北東北の日本海側に位置
- 人口約96万人、高齢化率37%（Ｒ１．７）
- 全国のすう勢を上回るペースで人口減少・少子高齢化が進行
  →地域コミュニティの担い手不足が深刻化

- 秋田犬や発酵食文化などの個性的な観光コンテンツ
- 重要無形民俗文化財数は全国１位
- 米の生産量は全国３位
- 清酒の生産量・消費量ともに全国トップクラス



２.事業の背景・課題

●地域の現状・解決したい課題

- 全国で最も早いペースで人口減少、高齢化が進み、地域コミュニティの維持・活性化への対応が「待ったなし」の状況
- 一方で、移り住むことはできなくても、秋田県のために活動したいというニーズが徐々に高まりつつあり、首都圏等において、本県を自主的に応援しようとする団体が様々な活動を始めている
- 人口規模、経済規模ともに日本第二の都市圏でありながら、首都圏と比べ本県の認知度が低く、移住世帯数に占める割合が約６％である関西圏をモデル地域とし、移り住むことなく本県の地域コミュニティの維持や活性化を多様な形で応援する「関係人口」の創出を図り、多様な人材との協働による地域づくりを促進する

●地域課題の解決・改善にあたり、関係人口に期待すること

- 首都圏と比べ秋田県からの人口流入量が少なく、地理的にも遠い関西圏は、観光や移住などの取組施策が少ない状況
- ３市町と連携して、「関係人口」の核となる20名を創出し、その家族や友人などを巻き込みながら秋田と関わる仕組みや体制を構築
- 関西圏における「つながり」の輪を拡大することで、「関係人口」と連携した地域づくりの活性化や、関西圏での観光や移住などの情報発信力の強化を期待



3.事業の全体像

●地域の理想の姿

（５年後）
関西圏居住者と秋田県民との連携による地域づくり活動が行われ、人口減少・高齢化が進む地域においても、人々が生き生きと地域コミュニティの維持や活性化に取り組んでいる。

●地域課題解決のプロセス

（2019）
地域づくりを実践的に行うプログラムのスタート

↓

（～2022）
- 市町村と関係団体等からなる情報共有や勉強会の場を設置し取組拡大
- 都市圏を中心に創出された関係人口と連携した交流イベントの実施

↓

（～2024）
中間支援を担う団体と都市圏における関係案内人が育成され、地域外居住者と連携した取組が活発化

●事業の目的・ねらい

- 関西圏居住者をターゲットに、秋田での地域づくり活動を実践的に行うプログラムを企画し募集する。
- これに先立ち地域側の受入体制として、中間支援を担う団体を指定し、市町担当者とともにどのようなプログラムを提供するかを検討する。
- 実践プログラムを通じて、関西圏居住者と秋田県との関係性を深め、関西圏における「関係人口」創出の核となる人材「関係案内人」の創出につなげる。
- 地域住民と地域外居住者によるコミュニティ活動や課題解決に向けた取組をモデル的に実施し、「関係人口」との協働による地域づくりを推進するための課題を明らかにするとともに、「関係人口」創出に向けた地域側の取組意識の醸成を図る。

●本年度の目標

- 実践プログラム参加者数　20人
- 秋田県居住者と「関係人口」が交流するためのプラットフォーム

  会員数　200人

４.事業の実施体制とターゲット

●事業の実施体制

- 秋田県は関係者との調整、各地域の取組の情報発信を担当
- 市町村は、地域内での活動に向けたニーズの掘り起こしや住民との調整を担当
- 中間支援を担う団体は、地域内での活動のコーディネートやプログラム全体の進行を担当

団体・組織名称	役割・責任
秋田県	○総合調整　○関西圏での参加者募集 ○実践プログラム内容の調整・実施の総括
にかほ市・五城目町 羽後町	○実践プログラム内容の調整・実施 ○参加者との関わりを深めるためのフォローアップ
（一社） ドチャベンジャーズ	○実践プログラムに関する体制づくりやコーディネート等の総括 ○県内の関係団体等への周知、協力要請
NPO法人 みらいの学校	○羽後町の実践プログラムに関する体制づくりやコーディネート等 ○羽後町内の関係団体等への周知、協力要請

●事業のターゲット層

- 年齢に制限は設けず、東北や秋田に関心を持ち、関わりを希望している方をメインターゲットとする
- こうした関心を持つ方は、本県の地域とより深い関係性を築きたい、役に立ちたいという気持ちがあり、継続的な関係構築に結びつきやすい

ターゲット層	ターゲット設定の理由（地域課題の解決にどうつながるか）
東北や秋田に関心を持ち、何らかの形で関わりたいと考える関西圏居住者	● 東北や秋田に関心を持ち、関わりを希望する方は、本県を支える新たな担い手となり得る可能性が高い ● 本県の取組を通じて県外居住者ならではの視点による提案や実践活動につながる可能性が高い
仕事や家庭以外のサードプレイスを大切にしている関西圏居住者	● 職場でもない家庭でもない第三の場所（ｻｰﾄﾞﾌﾟﾚｲｽ）での活動に積極的に取り組む方は、本県の関係人口としての活動に対して価値を感じ、継続的な関係性を築きやすい

５.事業の経過

● 事業の経過

時期	取組内容	内容	工夫したこと	主な成果	問題となったこと、うまくいかなかったこと	気づき・感想、今後に向けた反省点
6月	フェイスブックページの立ち上げ	フェイスブックページで関西圏でのセミナーや実践プログラムの情報を発信	関係市町や県人会等が積極的にシェア 有料広告を活用	じわじわと閲覧数が伸びﾌｫﾛﾜｰ数497名を獲得	担当者一人でページ作成をしていたため、頻繁に情報を投稿できなかった	SNSの活用によりターゲットへ直接情報を届けることができた
7月	関西圏でのセミナーの開催	秋田との関わり方を学ぶセミナーを開催した	地域の食材やお酒も用意し、楽しく交流できる内容とした	関西圏から50名が参加 うち９名が実践ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加	会場が予想以上に手狭だった	会場下見をすべきだった。ｾﾐﾅｰのみの参加者とも関係性を深める仕組みづくりが必要
9～12月	３市町での実践ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	にかほ市（食と写真）、五城目町（アート）、羽後町（教育）を切口に地域と交流	・地域住民との交流の時間を用意 ・活動内容は参加者のニーズを反映	地域住民との個人的な交流が深まるとともに、参加者同士の団結力も高まり、自主的な活動が生じた	・参加者間で、活動に対する熱意に差があった ・今後の具体的な関わりを提示しきれなかった	多様な参加者のニーズを具体的な取組とﾏｯﾁﾝｸﾞするｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの育成が必要
1月	関西圏での報告会の開催	実践ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加者から活動を報告	実践ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加者が主役となる内容とした	関西圏から49名が参加 43名が連絡先を登録	会場の利用条件の確認不足により内容を変更せざるを得なかった	事前の連絡調整・現地確認は入念にすべきだった

6.主な取組の内容

●ターゲットへのアプローチ

- 大阪市で開催した秋田の魅力を発信するプロモーションでチラシを配布
- 秋田県との関わり方を既に関係人口として活躍している方から学ぶセミナーを開催
- 秋田県の関係人口創出のためのFacebookページを立ち上げ、取組のPRや実践プログラムの受入地域の情報を発信



←プロモーションでのPR



←セミナーのちらし

●主な活動内容

＜実践プログラム＞

- にかほ市、五城目町、羽後町３地域で地域づくり活動の実践にチャレンジ（２泊３日×２回）
- 実施期間：にかほ市（11月・12月）
  五城目町（10月・11月）
  羽後町（９月・11月）
- 参加者数：延べ44人



←小学生向けイベントの企画運営



←イルミネーションの設置

7.事業の成果と課題

●本年度の目標達成状況

- 現地活動参加者数　目標　20人 → 実績　22人
- 秋田県在住者と関係人口が交流するためのプラットフォーム会員数　目標　200人 → 実績　537人

●募集に関する成果・課題

●成果　○課題

（口コミ）
●地域課題を共に解決したいと希望するモチベーションの高い方の応募が多かった。
○予想以上に意欲的な方が集まることで、地域側の受入体制の準備不足が浮き彫りとなった。

（SNS広告）
●ターゲット層に絞って情報を届けることができた。
○効果が把握しづらかった。

（チラシ）
●中高年層以上の方へ情報を届けるのに効果的だった。
○チラシだけでは、事業主旨を正確に伝えられなかった。

●つながりの構築に関する成果・課題

●成果　○課題

●実践プログラムを実施した地域ごとにSNS上のコミュニティを構築できた。

●実践プログラムを受け入れた地域における関係人口に対する理解度が向上した。

○モデル事業により創出された関係人口が主体的に活動するための、関西圏での支援体制や秋田県での受入体制の整備が不十分。

○既存の秋田ファンの団体（近畿県人会など）と関係人口との結び付きが弱い。

●事業の遂行体制・役割分担での成果・課題

●成果　○課題

●関係者が役割分担をしながら事業を実施し、関係人口創出に向けた推進体制の構築が進んだ。

○地域によっては、中間支援を担う団体が不在で、取組を拡大するための、人材が不足している。

８.今後に向けて

●継続的な体制づくりの成果・課題

●受入地域ごとのフェイスブックグループがオンライン上での交流拠点として機能している。
○定期的に集まって交流するための場がない。

●事業実施に最低限必要な経費がモデル事業の実施で明らかになったほか、地域の企業や住民からも様々な面で支援を得ることができた。
○今後は、地域の実情に合わせた費用負担のあり方を詰めていくことが必要。

●その他の成果・課題等

●説明会、実践プログラム、報告会において、グループ単位で活動したため、実践ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加者による秋田を応援する小さなコミュニティが形成され、独自のイベント実施や秋田を肴に集まる会などが開催されている。
○関係性を構築した方々のモチベーションの維持に向けた活動の企画・実施や、新たな関係人口の創出に向けた幅広い層への働きかけ方などについて中長期のビジョンが定まっていない。

自由意見、アピール等

モデル事業により「関わりたい人」が一定数存在することを確認。その方々とどう連携していくのかは地域次第。
関係人口のモチベーションを維持しながら活動を継続的に行ってもらうための地域での受入体制づくりと中間支援を担うことができる人材等の育成が重要。

今後も継続した関係性を構築するため、**オール秋田での取組を進めていきます！**